大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第3回 学生交流委員会
議事次第

日 時：2022年11月30日（水）持ち回り開催

回答期限：2022年12月 7日（水）

委 員 校：神戸常盤大学（委員長校）、神戸親和女子大学（副委員長校）、芦屋大学、
関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、
神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、
神戸女学院大学、神戸市看護大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、
神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学、
兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学（計 25 校）

1. 審議事項

（1）2022年度事業の実施内容（結果）と自己評価について（資料1）

2. 報告事項

（1）なし

以上

2022年11月吉日

大学コンソーシアムひょうご神戸

事業委員会 委員長 各位

大学コンソーシアムひょうご神戸

理事長 中井 伊都子

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施頂きました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2022年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2022年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月12日（月）正午

2. 今後のスケジュール

- (1) ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
- (2) 第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
- (3) 第6回理事会による事業改善提案の審議：1月
- (4) 各事業委員会へのフィードバックと2023年度事業計画・予算提出依頼：1月
- (5) 第11回企画運営委員会にて2023年度事業計画・予算検討：2月
- (6) 第7回理事会による2023年度事業計画・予算審議：3月
- (7) ひょうご産官学連携協議会にて、2023年度事業計画・予算審議：3月

(添付書類)

- ・添付1 2022年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：大濱・小畑）

電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

【2022年度 学生交流委員会 自己評価】

委員長校 : 神戸常盤大学

副委員長校: 神戸親和女子大学

委員校: 芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸市看護大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計25校

<目的>

- 大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。
- 取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」
年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

<内容>取組課題③に対する「個別取組」は、下記の通り。

1. テーマ型の学生交流プロジェクトの実施

他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクト全体を「WILL BE プロジェクト」の総称で位置付け、実施する(例: 神戸青年会議所ほか、地元企業・団体等と連携した取組など)。
主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

2. 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報では、様々なメディアでの告知やコンソHPへの記事掲載を計画・実施する。CMや掲載文を考えることで自主性や文章構成力を高めることを目的とする。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。併せてコンソの認知度を高める

また事業の実施体制として、ユニット制での実施を継続して実施する。上記2事業に基づく2ユニットのいずれにも全委員校が参加し、ユニットごとに企画立案から多くの加盟校が主体的に参画することにより、学生交流の実質化に繋げる。

<期待される効果>

他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。

1. 学生が地域・企業との連携・協働を通じた社会貢献活動に、地元企業等と一緒に活動することで地元企業と地域の魅力を直に感じ、理解を深める効果が期待できる。

2. 参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。
上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。

課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		予算額
取組1	WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」	1,100,000円
取組2	学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	850,000円

【2022年度 学生交流委員会 自己評価】

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上／年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-1】	参加学生数20名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-1】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 〈WILL BE プロジェクト〉①地元企業と連携した地域活動(連携先:神戸青年会議所)			
活動指標 【③取組1-1】	イベントへの企画段階から参加し、ブース出店等を1回以上			
内容 (結果)	<p>◆神戸市、神戸青年会議所、企業、大学が連携し、兵庫・神戸のまちが持続性ある成長を可能にするため未来を担う人材＝大学生に兵庫・神戸の魅力を感じてもらう機会を提供する。</p> <p>〈内容〉 兵庫県、神戸市、神戸青年会議所ほかが実行委員会を形成し、主催される「みなとまつり」、そして今年度初めて開催となる「Autumn Festival in KOBE」にそれぞれ楽天ヴィッセル神戸株式会社と株式会社マルヤナギ小倉屋と企画から協力し、ブース出店を行う。</p> <p>【みなとまつり】 〈実施日〉2022年7月17日(日)、7月18日(月・祝) 〈会場〉神戸メリケンパーク(神戸市中央区) <募集対象>加盟校学生 ※団体・個人問わず 〈参加学生数〉11校52名(内訳)大手前大学(1)、関西学院大学(16)、甲南女子大学(1)、神戸海星女子学院大学(4)、神戸学院大学(3)、神戸芸術工科大学(3)、神戸松蔭女子学院大学(1)、 ◎学生たちは、事前に【キックターゲット班】、【SNS(インスタ)班】、【ポスター・チラシ制作班】、【サッカーゲーム班】、【フォトスポット班】に分かれ、当日までの準備、当日の運営を行った。 インスタ班はイベント当日もリアルタイムでインスタを更新、ポスター班は、呼び込みやヴィッセル神戸のガラガラ抽選の運営に協力。みなと祭り自体は、2日間で68,000人以上の来場者があった。</p> <p>【Autumn Festival in KOBE】 〈開催日〉2022年9月23日(金・祝) <会場〉京町筋(神戸市中央区・旧居留地) 〈募集対象〉加盟校学生 ※団体・個人問わず 〈参加学生数〉8校22名(内訳)関西学院大学(2)、甲南女子大学(1)、甲南大学(3)、神戸学院大学(2)、神戸松蔭女子学院大学(3)、神戸常盤大学(4)、神戸大学(3)、兵庫県立大学(4) ◎【新商品開発チーム】、【もち麦販売チーム】、【SNS広報企画班】の3班に学生を組分け、商品開発チームは、マルヤナギ小倉屋のキッチンスタジオで、考案した「もち麦ドリンク」の試作を繰り返し、金額設定なども学生自身が決め、当日の販売まで行った(計 150杯を提供、完売)。</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	2022年より中長期計画第Ⅱ期がスタート。全てが新しい取組(試み)となる。			
事業収支	収入(円) 1,100,000	支出(円) 206,088	収支(円) 893,912 備考 取組1-1、1-2、1-3の合計 ※10月31日現在	
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	<p>・今年度、新たな企画のため準備期間が短く、心配もあったが、多くの学生の参加があった。参加学生からは、「準備過程から当日まで、普段の大学生活では経験できない内容ばかりで勉強になった」「普段大学では一般の企業の方々と関わることがなく、大変貴重な経験」「企画やイベントは多くの方が支えあって成り立つことを実感した」などの感想があった。</p> <p>・地元企業との連携による本プロジェクトは、学生への刺激となり、所属大学の学内活動だけでは味わえない経験が、学生自身の成長に寄与したといえる。 目標、指標ともに達成しており、初めての試みとしては、満足できる成果となった。</p>			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	<p>■自己評価基準 (対到達目標)</p> <p>4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った</p>	<p>■自己評価基準 (対継続性)</p> <p>4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき</p>		

【2022年度 学生交流委員会 自己評価】

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上／年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進			
達成目標 【③取組1-2】	参加学生数30名以上			
課題を解決する 取組概要 【③取組1-2】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>②地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動			
活動指標 【③取組1-2】	参加団体5団体以上。個人参加15名以上。			
内容 (結果)	<p>◆神戸市と大学が連携し、設置している市内の「地域子育て支援拠点」や「こどもの居場所」でのボランティア活動</p> <p><内容> 加盟校が連携して、コンソ加盟校の学生がボランティア活動や地域貢献活動に参加しやすい場、そして学習成果を発表出来る場を提供する。自学のプログラムやフィールドを加盟校の他大学の学生にも開放し、学生間の交流を促進した。</p> <p>・2022年度：神戸常盤大学が展開する神戸市内3拠点 【ときわんモトロク(中央区・元町六丁目商店街)、ときわんノエスタ・てらこやノエスタ(兵庫区・ノエビアスタジアム神戸)、ときわんクニツカ・てらこや(長田区・アスタくにづか4番館)】を開放。</p> <p><開催時期>2022年11月～2023年3月 <募集対象>加盟校学生 ※団体・個人問わず <応募・参加状況>11月10日現在、4校7名の学生の応募があった。6名の学生が活動に参加中。 (内訳)神戸学院大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(1)、神戸女子大学(4)、神戸大学(1)</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	2022年より中長期計画第Ⅱ期がスタート。全てが新しい取組(試み)となる。			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	1,100,000	206,088	893,912	取組1-1、1-2、1-3の合計 ※10月31日現在
自己評価	【対到達目標】	2	【対継続性】	3
	<p>・2022年度下半期の新たな取り組みとして、10月から募集を開始したが、短期間で複数の学生が参加の意思を示し、実際の活動をスムーズに始めることができています。</p> <p>・また、地域活動を必修とする「履修科目」を有する加盟校に対しては、教育的な指導・サポートがある受入先としての役割も担うことができた。</p> <p>・加盟校が運営する施設・人材を活用して、大学間で連携・協力できている点、個人の学生ボランティアや地域活動へのニーズにも応える仕組みがあることは、加盟校全体で学生を育てることにもつながる。今後、各校で同様の取組が試行される可能性も含めて、継続可と判断すべきと考える。</p>			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	<p>■自己評価基準 (対到達目標)</p> <p>4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った</p>		<p>■自己評価基準 (対継続性)</p> <p>4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき</p>	

【2022年度 学生交流委員会 自己評価】

【③取組1】達成目標	各年参加者数50名以上
【③取組1】活動指標	参加加盟校数10校以上／年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		
達成目標 【③取組1-3】	参加学生数10名以上		
課題を解決する 取組概要 【③取組1-3】	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>③「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」		
活動指標 【③取組1-3】	参加学生のチーム活動／月1回以上(活動期間中)		
内容 (結果)	<p>◆「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 地域の活性化に資する人材育成のためのプログラムとして、地域スポーツ振興をテーマに企画実施する。</p> <p><内容>バレーボールVリーグに所属する「ヴィクトリーナ姫路」が抱える事業課題について、ゼミ単位もしくは大学の垣根を越えて構成した学生プロジェクトチームで課題解決につながる企画を立案し、ヴィクトリーナ姫路へのプレゼンテーションを経て、その企画を学生が主体となってホームゲームで実施し、その効果を検証する。学生には、大学講義等で学んだことを実践する機会となり、深みのある学びが期待できる。また、本事業を通じて、社会人として求められるスキルであるマーケティング思考やプロジェクトマネジメントを習得するきっかけとする。</p> <p><活動期間>2022年8月8日(月)～12月17日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年8月8日(月):オリエンテーション(会場:兵庫国際交流会館) ・2022年8月9日(月)～9月23日(金):企画実施準備(チームごとに活動) ・2022年9月24日(土):企画プレゼン大会(会場:ヴィクトリーナウイング体育館) ・2022年10月1日(土):学生チームの企画に対して実践に向けての課題提案(オンライン) ・2022年10月～11月:企画実施準備(オンラインワークショップ計5回開催) ・2022年11月12日(土):現地視察(会場:ヴィクトリーナウイング体育館) ・2022年12月3日(土)・4日(日):企画実地(会場:ヴィクトリーナウイング体育館) ・2022年12月17日(土):結果発表・表彰式 <p><募集対象・参加学生>加盟校学生・10校71名 以下内訳(大学名・参加者数) 明石工業高等専門学校(1)、関西福祉大学(7)、関西学院大学(9)甲南大学(2) 神戸海星女子学院大学(2)、神戸学院大学(20)、神戸女子大学(6)、神戸親和女子大学(8)、兵庫県立大学(14)、流通科学大学(1)</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)	2022年より中長期計画第Ⅱ期がスタート。全てが新しい取組(試み)となる。		
事業収支	収入(円) 1,100,000	支出(円) 206,088	収支(円) 893,912 備考 取組1-1、1-2、1-3の合計 ※10月31日現在
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】 4
	<p>・今年度初めての取組であったが、10大学から70名程の参加があった。5大学のゼミ参加に加え、個人応募の学生と運営スタッフチームは大学混合チームを編成、11チームに分かれて活動できた。</p> <p>・地元のプロスポーツチームが抱える課題を解決すべく、企画するだけでなく、実践とその成果が、評価対象となる本コンテストは、学生が社会人としての基礎力を身に付ける鍛錬の場にもなった。スポーツと地域振興の観点で、専門性の異なる学生間で切磋琢磨しながら、地域社会やビジネスの本質に触れることは、学生の成長を促す学び場としての可能性が高く、継続すべきと考える。</p> <p>・また、今年度新たに賛助会員企業に参画いただいたナガセケムテックス様には、協賛金として、100万円を賞金として拠出いただき、学生の学びを支援いただけた点も評価できると考える。</p>		

■自己評価基準
(対到達目標)

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	
------------------------------------	--

【2022年度 学生交流委員会 自己評価】

【③取組2】達成目標	情報公開数200取組以上
【③取組2】活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		
達成目標【③取組2】	情報公開数200取組以上		
課題を解決する取組概要【③取組2】	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施		
活動指標【③取組2】	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年		
内容 (結果)	<p>◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・実施した。</p> <p><内容> 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。</p> <p><結果> ・大学コンソーシアムひょうご神戸HP上の「NOTE」に、「地域で輝く学生」と題して、加盟校の学生の地域活動の様子を11月～2023年3月にかけて掲載。(継続中) ・取組1-1と連動し、「KISSFM神戸」に2022/7/14、9/22と2回出演。「WILL BE プロジェクト」イベントに参加した学生(関西学院大学・神戸海星女子大学・甲南大学・兵庫県立大学)が各回2名出演し、コンソ自体の活動、そして学生交流委員会の活動のPRを行った。 ・取組1-1で、参加したイベント関連の広報をSNSを活用し、学生が自ら発信した。 ・「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」に関して、神戸新聞に取材記事が掲出された。(2022/9/27朝刊、2022/11/2夕刊)</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)	2022年より中長期計画第Ⅱ期がスタート。全てが新しい取組(試み)となる。		
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円) 備考
	850,000	220,880	629,120
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】 3
	2022年上半期は、コロナがなかなか収束せず、加盟校の取組(イベント)自体に中止等があったせい、加盟校から学生の地域活動に関する積極的な情報提供や発信に関して、難しい状況が見受けられた。しかし、下半期11月以降からは大学からの情報提供が増える傾向が出ており、可能な範囲で情報発信はできている。		

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	
----------------------------	--